



やまなみ

山形市立大曾根小学校

学校だより

令和6年11月29日

校長

No.12 土井 正路

うまくてきたかな? ～第42回大曾根小敬老芋煮会～

11月7日(木)に第42回目の敬老芋煮会がありました。昨年度に引き続き、招待者を児童の祖父母、学校運営協議会の皆さん、お米の先生に限定し開催しました。全校児童が調理を分担し、5年生が全体の運営、1年生がこんにゃくちぎり、2年生が舞茸



切り、3年生がねぎ切り、4、6年生が調理を

担当しました。当日は食生活改善推進協議会の皆さんに協力いただきましたが、なるべく自分たちの手で料理することを目標としていたため、調

味料の分量などの計算違いから砂糖が入り過ぎた甘い芋煮汁もありました。それもよい経験と

なります。あるおばあちゃんからは「甘いけど、芋が柔らかく煮えていて美味しかったですよ。」と温かい言葉をかけていただきました。大人になって、仲間で集まったとき、笑い話として語られていくことでしょう。当日は新聞社さん、テレビ局さんから取材いただきました。昭和57年から続いている敬老芋煮会、「大曾根小と言えば敬老芋煮会」といわれるくらいの伝統をもつ学校行事です。ぜひ、これからも続けていきたいですね。



祖父母招き 敬老芋煮会

山形・大曾根小児童

山形市大曾根小(土井正路校長、42人の敬老芋煮会が7日、同校で開催された。全校児童が自分たちで栽培した里芋を使って芋煮を作り、祖父母らとにぎやかに鍋を囲んだ。

今年で42回目となる恒例行事。5年奥田雅基さん(11)は「みんな笑顔で食べてくれてうれしい」と話し、祖母の敦子さん(69)は「夏休みも里芋の水やりを一生懸命していた姿を知っているの、孫たちの思いが心に染みる」と喜んでいました。

祖父母らと一緒に芋煮を味わう児童たち(山形市・大曾根小) (瀬野麻衣)

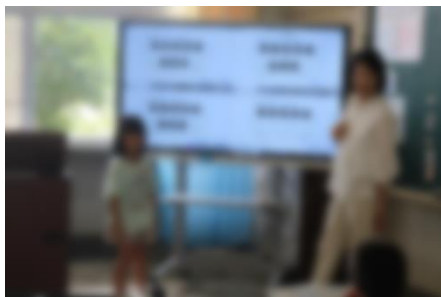
山形新聞で紹介いただきました。

山形新聞 2024年11月8日

教員も日々学び続けています ～校内授業研究会～

本校では、「自立した学びの育成～自己調整スキルを高める授業づくりを目指して～」を研究テーマに授業改善に取り組んでいます。一人一人の子どもの学びに寄り添い、子ども達に自己調整力（やまなみ7号参照、HPに掲載あり）をつけるために様々な学習活動を進めています。その一つとして研究授業があります。これは教師が授業の質を高めるために行う学びの一環で、授業の計画・実施・振り返りを通じて教育方法を改善する取り組みです。簡単に言うと、教師が「よりよい授業」を目指して互いに学び合う場です。

7月には6年社会科で佐藤亨樹先生が「地域の願いを届けよう」という単元で、本校の放課後子ども教室が抱えている課題をもとに地方公共団体の政治について学んでいく授業でした。放課後教室に関わるさまざまな方々へのインタビューやアンケート、自分たちで調べた地方自治の仕組みなどをもとに子ども達は学習を進めていきました。9月には1年生音楽科で鈴木恵里子先生が「せんりつでよびかけあおう」という単元で音楽づくりに挑戦しました。タブレットの機能をうまく活用して5音（ドレミファソ）を使った曲づくりに挑戦しました。10月には5年国語科で佐藤卓生先生が「こうありたい自分 こうなりたい自分」という単元で授業を行いました。やなせたかしさんの伝記をもとに、自分の生き方について考えたり、感じたりしたことを言葉にすることの大切さや読書が自分の考えを広げたり深めたりすることに気付かせることをねらった授業でした。12月にも研究授業が行われます。



見応えのある紙芝居でした ビックリ座パネルシアター

11月13日（水）の読み聞かせ活動は地区のボランティア団体である「ビックリ座」によるパネルシアターがありました。題目は「牛方と山姥」ちょっと怖いお話でした。素晴らしい語り、人形のパネルをうまく動かしての場面展開、迫力のある舞台でした。



学校保健委員会への参加 ありがとうございました。

11月21日（木）に村木沢コミセンにて、西部地区小中合同学校保健委員会が開催されました。

講師は井出眼科病院院長の井出智子先生でした。「子どもの近視」について、日本や世界の状況、近視の予防策、ひどくならないための方法などについて大変わかりやすくお話しいただきました。



「近視の講話、大変参考になりました。電子メディアに限らず適切な視環境が大切だということ、屋外で過ごしたり、遠くを見たり、休憩をうまくとったり、日々の積み重ねが大切だと感じました。

「できることからやっていき、子どもの未来につながれば良いと思った。」

「講演がためになった。多くの子育てに関わる方々に聞いて欲しい内容であった。」【参加者の感想から】